

きょうの紙面

**オリパラ
大百科**

パラ卓球
8面

3面に
**6さいからの
ニュース**

疑問氷解 2面

「柿の種」のかたち
恋する百人一首 4・5面

霜降る夜の歌
おもしろサイエンス! 6面

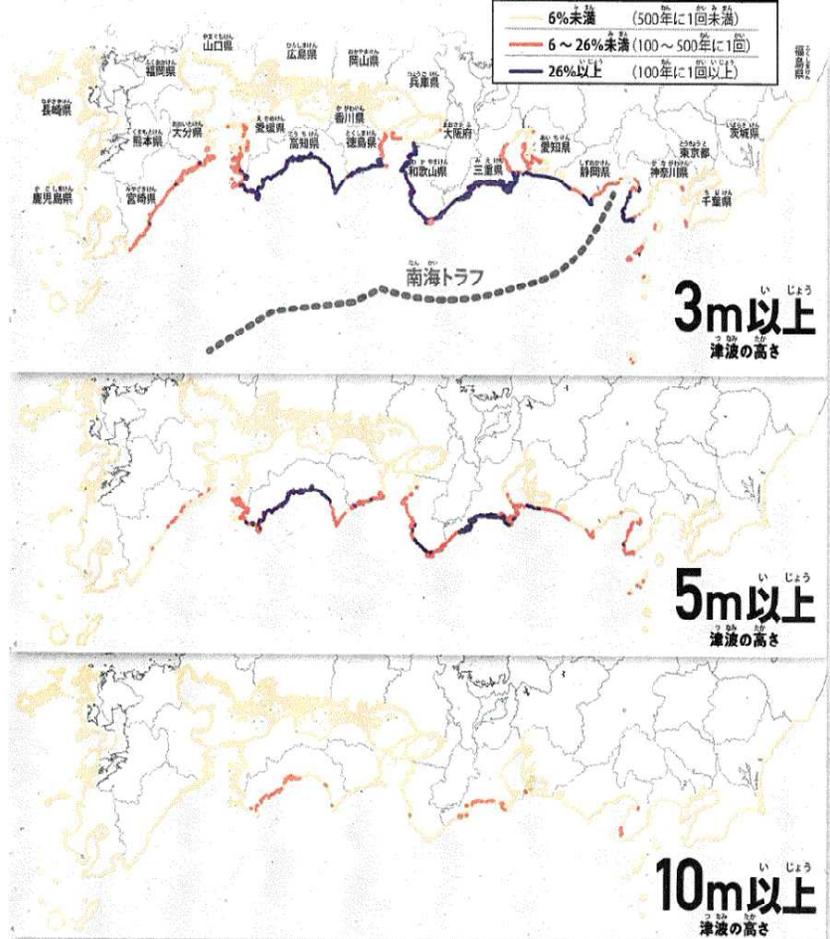
爪切りのでこ

南海トラフ地震

津波3メートル以上10都県

政府の地震調査委員会は、南海トラフ地震による津波が、これから30年以内に起こる確率を推計した結果をまとめた。「高さ3メートル以上の津波が「26%以上」の確率で起きるのは、太平洋側の10都県71市区町村の広い範囲におよぶと予測。高さ3メートルの津波でも木造の家が壊れたり、人が流されたりするため、備えが求められます。

津波が30年以内に発生する確率



被害想定「確率」で

政府が津波の被害想定を「確率」の形で示したのは初めてです。1361年以降に起き、地震の規模を示すマグニチュード(M)が8〜9だった大地震の記録に基づき、これからの起こりやすさを考えながら評価しました。30年以内に南海トラフ沿いで大地震が発生し、海岸での津波の高さが、3メートル以上5メートル以上10メートル以上になる確率を算出。それぞれの高さの津波がおそう可能性

最悪で死者23万人

政府の中央防災会議などは2012年、M9.1で最大級とされる「南海トラフ巨大地震」の被害想定をまとめた。津波は高知県黒潮町と土佐清水市で最大34メートルとなるほか、東海から四国の太平洋岸に20〜30メートルが来るとしました。最悪のケースの死者数は最新のまとめで23万1000人に上ります。ただ、今回は、このような最大級の地震は起こりにくくとして、評価から外されました。今回の想定について、最大級の被害を想定してきた自治体には「確率で示されても住民に分かりにくい」と戸惑いも見られます。

昨日の地震避難訓練で、少しお話しした南海トラフ地震の記事が、今日の新聞に載っていましたので紹介します。

それと、話の最後に紹介した「令和元年度1.17ひょうご安全の日宣言」の全文も載せておきます。

平成17年度から毎年宣言文が出ています。今年で15回目の宣言文です。ネットですべて見るができますよ。

阪神・淡路大震災から25年が経った
私たちは国内だけでなく 世界の多くの人たちにも
この震災の教訓を知ってもらいたい 活かしてもらいたい
そのように願って 伝え続けてきた

ボランティア こころのケア 生活再建支援制度
創造的復興を目指す中で
社会を支える新たな「しくみ」も生まれた

今なお災害がやむことはない
昨年6月に山形県沖を震源とする地震が発生し
8月に九州北部豪雨が起った
9月の台風15号は 風台風となって 長期停電をもたらした
10月の台風19号は 雨台風となって その後の豪雨との連続災害により
広域にわたる氾濫被害と浸水被害を繰り返した
ボランティアは不足し きめ細かな生活再建支援が求められている

令和の時代が希望の時代になることを願い
新しい時代を 災害で特徴づけてはいけない
災害を他人事と考えず
正視して対処することが大切だ

震災から四半世紀
若者世代に その記憶はない
いまこそ 震災を風化させない取組が必要だ
震災から生まれた「しくみ」を育て
次世代につなぎ 「災害文化」として定着させなければならない
日常防災を豊かにして 安全安心社会に向かうのだ

忘れない 伝える 活かす 備える 阪神・淡路大震災の教訓を
震災の教訓は すべての時代に通じる知恵だから

2020年1月17日
ひょうご安全の日推進県民会議